

# GSUM | 大阪市立大学大学院 都市経営研究科

いずれも参加自由、無料、  
会場は大阪駅前第2ビル6F  
大阪市立大学梅田サテライト

10/18 金  
梅田 18:30 ~ 21:00

## 都市行政コースシンポ「現代総有」

【趣旨】「現代総有」とは、土地や建物を全員で所有、利用し、その利益を全員、あるいは地域に還元するという考えです。物質的な豊かさを追求する中で、人や地域とのつながり、心のつながりが失われ、漠然とした不安を感じながら日々を過ごす現代社会において、「現代総有」は人々の間に新たな「絆」を築くための理論と実践を示すものとして大きな期待が寄せられています。今回はこの「現代総有」という視点から、私たちの中にある漠然とした閉塞感を振り払う鍵を探っていきます。

◀【基調講演】五十嵐敬喜氏（法政大学名誉教授・現代総有研究所所長）。1944年山形県生まれ。1968年東京弁護士会登録。法政大学法学部教授を経て、2018年6月に現代総有研究所を開設。『現代総有論序説』（共著）、『美しい都市と祈り』など著書、論文多数。  
【司会】高野恵亮（都市経営研究科教授）法政大学大学院社会科学部研究科博士後期課程修了・博士（政治学）。著書に『戦後国会における議員立法』（志学社、2016年）、共著書に『都市行政の最先端』（日本評論社、2019年）、『現代日本宰相論』（龍溪書舎、2012年）等。



10/25 金  
梅田 101 18:30 ~ 21:00

## 都市政策・地域経済コースシンポ「PPP（公民連携）で進める地域包括ケアシステム」

【趣旨】高齢化が急速に進展する中、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域が支え合いながら包括的な支援やサービス提供を行う地域包括ケアシステムの構築が進められています。今回は、サービス付き高齢者向け住宅を、行政と民間主体が円滑に連携するPPP（Public Private Partnership：公民連携）を活用して整備し、これを核として地域包括ケアシステムの構築を推進している学研ココファンホールディングスの代表取締役社長を講師としてお迎えし、高齢者向け住宅の現状と課題、多様なPPP手法を活用したサービス付き高齢者向け住宅整備と地域包括ケアシステムの推進の動向等について学びます。

◀【基調講演】小早川仁氏（株）学研ココファンホールディングス代表取締役社長。1990年4月（株）学習研究社入社、2009年5月より現職。（株）学研ココファン・ナーサリー代表取締役社長、（株）学研ココファンスタッフ代表取締役社長、（株）学研ホールディングス取締役。主な公職として、一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会会長、高齢者住まい事業者団体連合会副代表幹事、一般社団法人高齢者住宅協会会長など多数。

【司会】佐野修久（都市経営研究科教授）北海道大学法学部卒、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻修了。政府系金融機関、香川大学、釧路公立大学を経て現職。PPP/PFIや地域経営／公共経営について研究。



10/30 水  
梅田 18:30 ~ 21:00

## 都市政策・地域経済／都市行政コース合同シンポ「公共経営と行政のイノベーション」

【趣旨】各教員の研究内容についてご紹介いただくとともに、都市経営研究科の代表的科目の内容紹介や模擬授業、新刊のテキスト『都市行政の最先端』等の説明を兼ねてシンポジウムをおこないます。

◀【第1講演】「論図とフューチャーセッション」公共セクターのイノベーションを加速化するためにはどんな取組方をすればよいだろうか。今回は、関係者間で問題を共有し衆知を集め共働を促す実践的手法を2つ、体験ワークも交え紹介したい。1つは、論図（論理思考を図解化するTOCIEメソッド）。もう1つは、フューチャーセッション（対話により未来共創を促すワークショップ）である。（講師プロフィール）江口雅祥氏（パブリック・ビジネス・インターナショナル代表）京都大学経済学部卒業。複数の民間リサーチ・コンサルティング会社等に勤務後、フリーランスに。人材開発・問題解決コンサルティングでは論図やフューチャーセッションを駆使した学び・創造の場づくりを実践している。都市経営研究科では非常勤講師として「公共経営論」他を担当。京都大学経営管理大学院修了（MBA）。

【第2講演】「ソーシャルイノベーションと新しい公共政策」公共セクターにおけるこれまでの改革や取り組みを振り返り、今後の新潮流として、マーケティング手法・視点を活用した社会課題の解決や、幸福度を軸とした地域経営への挑戦などを紹介しながら、これからの公共政策について考えます。（講師プロフィール）永田潤子（都市経営研究科教授）元大阪市政改革委員、海上保安大学校卒、埼玉大学政策科学研究科（修士・政策分析）、大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学。著書に『パブリックセクターの経済・経営学』『図書館経営論』等がある。

【第3講演】「都市行政の最前線」高野恵亮（都市経営研究科教授）（講師プロフィール）上記参照。



11/8 金  
梅田 18:30 ~ 21:00

## 都市政策・地域経済コースシンポ「自然な食と農による地域活性化」

【趣旨】今、集客による地域活性化や観光振興の場で、大きな革命（パラダイムシフトという考え方の変化）が起きています。名所旧跡などの有名な資源がないと人が来てくれなかった時代が終わり、ニューツーリズム革命という、個人の趣味や嗜好に基づく来訪行動に移行し、どのような地域でも既存の資源を磨くことで地域活性化が可能となっています。特に「自然な素材にもとづく地産地消の食」が地域活性化の最大のキラーコンテンツ（魅力）になりつつあります。自然な食・農による地域活性化の第一者に、豊富な事例を交えて講演いただきます。

【基調講演】金丸弘美（かなまる ひろみ）氏（総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房地域活性化応援隊地域活性化伝道師。食総合プロデューサー）。著書に『田舎力 ヒト・物・カネが集まる5つの法則』（NHK生活人新書）、『幸福な田舎のつくりかた：地域の誇りが人をつなぎ、小さな経済を動かす』（学芸出版社）、『里山産業論「食の戦略」が六次産業を超える』（角川新書）等多数。【司会】小長谷一之（都市経営研究科教授）



# GSUM | 大阪市立大学大学院 都市経営研究科

いずれも参加自由、無料、  
会場は大阪駅前第2ビル6F  
大阪市立大学梅田サテライト

**11/15 金**  
梅田 18:30 ~ 21:00

## 都市ビジネスコースシンポ「AIマーケティングの発展とその課題—世界最高峰のAI/CRMを創る」



【趣旨】2018年はAI元年といわれており、大企業のAI導入が急速に進み始めました。しかし大阪経済圏ではその導入が遅れている感が否めません。とくに中小企業の導入は少なく、成功事例もあまり多くありません。そこでAIとマーケティングに関するシンポジウムを開催することになりました。近年のマーケティング領域におけるMAやCRM及びAIの導入の基礎理論と実践事例を廣見剛利氏を中心に分かりやすくお話しいたします。

◀【基調講演】廣見剛利氏（株式会社マックスヒルズ 第一カンパニーカンパニー長。株式会社マーケティングデザイン代表取締役社長。一般社団法人日本マーケティングマネージャー協会代表理事）著書に「集客の方程式」（共著）がある。

▶【司会】近藤彦（都市経営研究科教授）広島大学大学院生物圏科学研究科博士後期課程単位取得退学後、小樽商科大学、鳥根県立大学などを経て現職。その間、東京大学社会情報研究所、北東アジア地域研究センター、科学技術振興機構の研究員を歴任。現在の研究対象は情報経済論、情報社会論、情報経営論。著書論文としては『IT資本論』、『Web2.0の成功学』、『経験の社会経済』等。



**11/21 木**  
梅田 101 18:30 ~ 21:00

## 都市ビジネスコースシンポ「「起業の科学」著者が語る新規事業7つのポイント」



【趣旨】新規事業を立ち上げ成功させることは、企業存続に不可欠ですが、成功率は高くありません。どうすれば新規事業の失敗を防ぐことができるのか、「起業の科学」論に基づいて、新規事業成功のポイントについてご講演いただきます。

◀【基調講演】田所雅之氏（Unicorn Farm CEO）日本と米国シリコンバレーで合計5社を起業してきたリアルアントレプレナー。米国シリコンバレーのベンチャーキャピタルのベンチャーパートナーを経て、現在は、国内外のスタートアップ数社の戦略アドバイザーやボードメンバーや日本最大級のウェブマーケティング会社 Basic of the Chief Strategic Officer を務める。世界で累計7万シェアされたスライド“Startup Science”、発売後、経営管理部門で81週連続ベストセラー1位になった書籍『起業の科学—スタートアップサイエンス』の著者である。

▶【司会】梅原清宏（都市経営研究科教授）京大大学院理学部・文学部卒、大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了・修士（都市ビジネス）。大学卒業と同時に起業し、教育事業及びコンサルティング事業を経営。おおさか地域創造ファンド事業では地域活性化コーディネーターとして、中小企業の新規事業開発を数多く支援した。2018年4月より現職。新規事業開発、ICTビジネスを研究。



**11/27 水**  
梅田 18:30 ~ 21:00

## 都市政策・地域経済コースシンポ「新たなまちづくりイノベーション—パークPFIを進化させる実践事例」



【趣旨】公民連携により、市民に親しみやすい、賑わいの公園に生まれかわる。今注目のパークPFI手法の実践的なやり方について、公園活用のまちづくりの専門家にお話いただきます。

◀【基調講演】廣常啓一氏（ひろつね けいいち）立命館大学卒業、(株)日経広告を経て2005年より(株)新産業文化創出研究所 (ICIC) 代表取締役所長に就任。1990年国際花と緑の博覧会や、昆明世界園芸博覧会、淡路花博等をプロデュース。公園活用のまちづくりと関連産業の創出等を各地で実施。

▶【司会】佐藤道彦（都市経営研究科教授）元大阪市計画調整局長、元堺市副市長。京都大学工学部卒、大阪府立大学大学院経済学研究科経営学専攻修了。大阪市の都市計画部局において都心部・ベイエリアでの都市再生政策にたずさわる。編著『まちづくりイノベーション—公民連携、パークマネジメント、エリアマネジメント』（日本評論社）、共著に『日本の都市づくり』（朝倉書店）他。



**12/6 金**  
梅田 18:30 ~ 21:00

## 都市行政コースシンポ「大学博物館の立ち上げから地域貢献・国際交流まで—新潟大学旭町学術資料展示館を中心に」



【趣旨】新潟大学旭町学術資料展示館の立ち上げから現況までの苦労話をします。地域博物館等との連携や国内外の移動博物館等を紹介し、本格的な大学博物館を目指す上での課題・問題点・解決策を提示します。海外の博物館400館ほどの視察成果等も織り交ぜます。ジオパーク・世界遺産登録運動や平和教育への活用などにも触れます。

◀【基調講演】橋本博文氏（新潟大学名誉教授、同人文・社会科学系フェロー）1953年群馬県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学。博士（文学）。専門は日本考古学。95年、新潟大学に赴任。新潟大学旭町学術資料展示館の創設を主導。同館長を14年間兼務。佐渡金山の世界遺産登録運動に関与。文化財保存全国協議会代表委員。

▶【司会】久末弥生（都市経営研究科教授）北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了・博士（法学）、フランス国立リモージュ大学大学院法学研究科正規留学、アメリカ合衆国テネシー州ノックスビル市名誉市民。単著『考古学のための法律』（日本評論社）、『都市計画法の探検』（法律文化社、第25回国際公共経済学会賞受賞）、『現代型訴訟の諸相』（成文堂）、編著『都市行政の最先端—法学と政治学からの展望』（日本評論社）他著書多数。

